

ふくしむら 21

第 73 号

発行日：2022 年 7 月 31 日

発行：福祉村委員会

編集責任者：末竹十大

印刷：ラクスル株式会社

巻頭言

自分のこととして…

東海教区教区長 徳弘浩隆

何事も、自分のこととして考えなければいけません。日曜日の礼拝の説教も、聖書のわかりやすい説明をしたり聞いたりするだけでなく、「では自分はどうだろう？」と振り返る時間を大切にしています。

東海教区に来て福祉村の働きが身近になって 4 年目になります。一昨年からは教区長となり、もっと責任があることになりました。思い返せば 20 年ほど前は教会事務局にいて会議に出ていましたから、福祉村構想の夢とその実現を見てはきました。しかし、東海教区の教会に赴任して、支える皆さんの情熱や、現地の働きの難しさや素晴らしさに触れるようになりました。



そして実は、もう一つ急に自分のこととして考えなければならないことも去年から体験しています。九州の実家で 90 歳で二人暮らしをしている両親ですが、母が昨年脳梗塞で倒れたのです。私がブラジルにいた 10 年間は「急なことが起こっても急いで駆けつけても 30 時間はかかるから、倒れても少しゆっくりしてくださいよ」と冗談を言い一緒に笑っていましたが、何もなく守られました。しかし去年母が倒れたのです。病院まで自動車を運転して 12 時間。一命はとりとめました。が自宅で父の介護で生活する

のは難しいと思い、父を説得して、退院後は特別養護老人ホームに入所することを決めました。地域の相談員さんと相談し、いくつか見学もしましたがどこも満員で順番待ち。「人生は幼稚園の入園から最後まで順番待ちだなあ」と、途方に暮れもしました。今まで福祉村の働きのこどもの家のこと、そしてこひつじ診療所に来られる中の特にブラジル人の方々のことなどには心を寄せていましたが、ディアコニアのことにはそれほど「自分のこととして」感じていなかったことに気づかされ、反省させられました。コロナも少し落ち着き、会議などでディアコニアを訪ねる際にも今までと違った気持ちで見、話し合い、祈るようになりました。

先日写真を撮って SNS に載せますと、ブラジルのルーテル教会で一緒だった日本人移民の方がメッセージをくださいました。「私もブラジルで老人施設を探しているところですが、キリスト教の施設で安心して過ごせるところがなくて困っています。先生のところの施設、牧場もあり、イエス様のステンドグラスもあっていいですねえ」と。この方も 90 歳で私の両親と同年代です。一緒に泣いたり笑ったりしながら生きてきた方々を、安心できる場所にお任せできるよう、この働きを大切にしていきたいと思います。

そういえば、私もお世話したブラジル人のメンバーが岐阜の老人施設に就職できて、通訳や手続きに何度も行きました。自分をもっと歳を取って老人施設に入るのは、外国人の方にお世話になるかもしれないなあ、これも「自分のこととして」老後を考えています。

だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい（マタイによる福音書 7:12 新共同訳）。この言葉を思わされています。これからも、この働きと将来への新しい道への発展をお支えください。

デンマーク牧場の開墾の始め

こひつじ診療所 院長 武井 陽一

ハリー・トムセン宣教師、エミール・フェンガーさんと共に、農民学校が開校する（1965年11月1日）前に、デンマーク牧場の開墾の始めに働かれた西川求さん（現在82歳、北海道瀬棚・西川牧場）が、4月9日、デンマーク牧場を訪ねて下さいました。佐保吉一教授（東海大学・北欧学科）も来られました。

1962年12月、トムセンさんが北欧の信徒たちの献金により広大な土地を購入、1963年5月（～64年11月まで）、エミール・フェンガー夫妻がデンマークから農業・酪農コンサルタントとして赴任しました。

フェンガーさんは関東大震災後の1923年（大正13年）より5年間、北海道庁より招かれて、デンマーク酪農一家のモデルとして農場を開墾しました。黒沢西蔵らによる雪印乳業や酪農学園大学の歩みにもつながりました。さらに、戦後の困窮の時期（1951～54年）に、山形県新庄に日本政府より招かれ、酪農農業指導をしました。

3回めは70歳、今度は私費で来日して、1963年5月、デンマーク牧場での開墾を開始しました。同年8月、職員住宅が完成してトムセン一家（夫妻、息子2人、ご両親の6人家族）とフェンガー夫妻、通訳者の嶋屋康男一家が住みました。1963年7月、青砥好夫あおとさんが農業・酪農助手として赴任しました（～1965年10月）。青砥さんは農村伝道神学校研修科で学び、酪農学園（北海道・江別）勤務中に、かつて北海道やデンマークのフェンガーさんの農場で実習した酪農学園の教授・中曾根徳二や、学長・樋浦誠ひうら（のちに浜松聖隷短大の初代学長）に勧められ、デンマーク牧場に来ました。1964年1月、牛舎が完成し、酪農学園の計らいでホルスタイン5頭が北海道より青砥さんが同行、貨車に載せられ袋井まで運ばれ、デンマーク牧場にて放牧が開始しました。

1964年4月、西川求さんが農業助手として赴任しました（～1965年7月）。フェンガーさんのこれまでの功績と労により、同年4月デンマークより9頭の赤牛（乳兼肉牛）が、7月にはオーストラリアよりヘレフォード牛（肉牛）15頭が牧場に来ました。

西川求さんは静岡市出身、基督教独立学園（山形・小国）第8期生として山奥の小さき家屋で校長や教頭一家などと共同生活しながら学び、「開拓」について興味を抱き、酪農学園大学第1期生として入学しました。「開拓同志会」を作り、学内を超えて地域の人たちとの交わりへと活動を広げる中で、フェンガーさんのもとでデンマーク農業が学べることに心惹かれて、デンマーク牧場に来て働かれました。さらに西川さんの勧めにより、「開拓同志会」後輩（学生）6名が、1965年3月、6週間デンマーク牧場に研修に来て働きました。フェンガーさんのもとでの働きの日々は「ぼくの青春そのものであった。……夢と希望だけでなく、迷いと挫折、失望と固い決意に蘇らせてくれた複雑極まりない心境でした」と西川さんは回想されました。

西川さんは、やがて北海道・瀬棚せたな、日本海に面した季節風の厳しい山坂の多い開拓地に酪農の新規入植をしました。6名の学生の一人・河村正人さんも、デンマークで学んだ後に、同じく瀬棚で牧場「瀬棚フォルケホイスコーレ」を開きました。基督教独立学園高校の学生は北海道へ19日間も修学旅行に行きますが、そのうち1週間は瀬棚の西川牧場などで酪農実習を続けてきました。二つの牧場は今も息子家族らにより続けられています。「主の導きを信じて祈りをもって感謝して継続して来られた」と西川さんが語られました。

青砥さんは農村伝道学校神学科で学び、牧師となりました。

これらのキリスト者たちのはじめのデンマーク牧

場開墾の働きを経て、1965 年 11 月 1 日、スカンジナビア農民学校が開校、1969 年 10 月、新霊山教会が献堂しました。

1990 年 3 月、デンマーク牧場の営みは一度閉鎖されましたが、松田正幸・麻美子夫妻らの熱意により、フリースクール「こどもの家」後援会、日本福音ルーテル教会の皆様より 100 万円の献金を得られ、乳牛 1 頭、肉牛 1 頭ずつを購入、酪農が再開できました。2017 年、牛舎改築・牛乳を処理するミニプ

ラントを一新しながら、今日まで自分たちで乳製品を作り販売する酪農の営みが継続されています。今回、34 年間働き続けた松田夫妻はじめ、フリースクール、牧場の営みを続けた方々の労をも重ねて思いました。

西川求さんと私には共通な主に在る友人が多くいることを確認しあいました。私もデンマーク牧場と出会い 28 年、こひつじ診療所を開院して 15 年が経ちましたが、今この時に、西川さんに出会えたこと、不思議な導きに深く感謝しています。



写真説明 【上左】デンマーク赤牛 9 頭とはじめの牛舎。牛舎の右隣の住宅に青砥好夫さんと西川求さんが生活した。一部屋ずつの 2 部屋。トイレ、風呂、台所は共用で自炊した。 【上右】デンマーク牧場で農作業中のエミール・フェンガーさん（1894～1983） 【下】2022 年 4 月 9 日撮影、左から 2 番めが西川求さん、3 番めが佐保吉一先生。



祈りの募金

福祉村委員長 末竹十大

今年、福祉村委員長になってから、10年以上前に委員長をしていた頃からはずいぶんと変化していることが分かってきました。福祉村設立委員会が組織された当初考えられていた「福祉村構想」は「第二期」にはキャンプなどもできる施設をと考えていましたが、教区にはそこまでの経済的力もなく、デンマーク牧場福祉会が自立した今は福祉会の働きのみが「福祉村構想」として残っているとも言えます。この働きが継続されていくために、教区として何ができるのかと言えば、募金活動しかないのだろうかと思うと、そこまでの経済的力がない現状を考えると、困難さを覚えます。

デンマーク牧場福祉会設立資金を教区が寄付するために、本教会が管理している資金や基金を使用したわけですが、これらの資金や基金への返済募金もようやく2023年には終了いたします。コロナ禍やウクライナ危機による経済の不安定さの中で各教会の経済も逼迫しているにも関わらず、返済募金にご協力いただいていますことに感謝いたします。20年の歳月が過ぎて、教会は弱く小さくなっていますが、福祉会が残るならば、それで良いのかも知れないと思います。生み出した存在が消えても、生み出された存在が活き活きと活動しているならば、喜べるはずです。

時代は変わり、施設で働く方々も交代していく中で、変わらない理念だけが残っていく。この理念を維持していくのは、理念をもって建てられた社会福祉法人であると言えるかも知れません。そうであれば、弱く小さくなった教会にできる働きは、理念に従って働き人たちが使命を感じながら働くことができるように祈ることであろうと思います。毎週の主日礼拝の中で祈られる「教会の祈り」に、福祉村の

働きとその理念が形となるようにとの祈りを加えてくださるとありがたいと思います。

教会が弱くなったとは言え、教会の祈りから生まれたデンマーク牧場福祉会です。その設立資金を寄付したのは東海教区ですが、返済募金が完了することで、ようやく設立資金が貯まったとも言えます。20年かけて設立のために教会が祈り続けた結果が、現在のデンマーク牧場福祉会です。ここで働く人たちが、わたしたちの祈りを形にしてくれているということに改めて感謝しながら、あと少しの間返済募金にご協力いただけますようお願いいたします。

「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。」

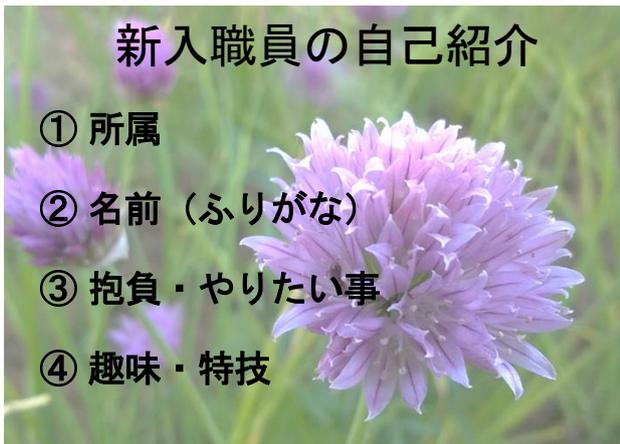
(ヨハネ 12:24) とおっしゃった主イエス・キリストの言葉に現れている神の意志が、デンマーク牧場福祉会としての多くの実に結実しているものでありますように。そこで生活することもたちからお年寄りに至るまで、一人ひとりの魂が神の守りの下で平安でありますように。東海教区の各教会が祈りを合わせていただけますようお願いいたします。



* 東海教区、道友会、デンマーク牧場福祉会の三者で当初計画していた「福祉村」構想です。

新入職員の自己紹介

- ① 所属
- ② 名前（ふりがな）
- ③ 抱負・やりたい事
- ④ 趣味・特技



- ① ディアコニア
- ② 笹木 薫（ささき かおる）
- ③ 利用者一人一人の気持ちを考えながら寄り添う支援をしたい。人として成長したい。
- ④ YouTube で猫や犬を見て癒される。パン屋巡り



- ① まきばの家
- ② 前田かな（まえだ かな）
- ③ こどもに寄り添い、信頼関係を築けるように努力をしていきたい
- ④ 映画鑑賞、観劇
運動（走ることと泳ぐこと、体を動かすこと）



- ① ディアコニア
- ② 松浦由奈（まつうら ゆうな）
- ③ 楽しみながら仕事がしたいです。ご利用者様とのコミュニケーションを大切にし、一人一人に寄り添った支援をしていきたいです。
- ④ アニメ鑑賞・梱包作業



- ① まきばの家
- ② 柳澤芽衣（やなぎさわ めい）
- ③ 子どもたちとの生活を大切に過ごしていきたいように、たくさん挑戦して、失敗もして、そこから学んで成長していきたいと思っています。
- ④ お菓子作り、フィルムカメラ



- ① ディアコニア
- ② 原田佑美香（はらだ ゆみか）
- ③ 利用者に寄り添って楽しい生活を送れるように頑張りたいです。
- ④ スポーツ

牧場研修を通して学んだこと

特別養護老人ホーム「ディアコニア」 松浦由奈



牧場研修では、羊や牛と触れ合ったり牛舎の掃除をしたりする作業や、いぶき就労訓練メニューの部品の

袋詰めや羊毛を使って製作を行ったりする作業を行いました。

作業の中には自分の苦手なものもあり、途中で投げ出してしまうようなこともありましたが、いぶきの職員の方の励ましにより最後までやり遂げることができました。

短い研修期間ではありましたが、多くのことを学び、本当に貴重な体験をさせていただき充実した日々となりました。今後は、自分も利用者さんが元気になれるような言葉がけを行い、安心して楽しく過ごすことができるサービスを提供していきたいと思っています。

トピックス (6~7頁)

- ① わいわいワーク ② ティアコニア ③ いぶき ④ まきばの家

① わいわいワーク

27 名の方々が参加してくださいました。



わいわいワーク開会礼拝説教抄「神の記憶」

「なぜなら、主は知っているから、わたしたちの形を。わたしたちが塵だと記憶して」（詩編 103:14、私訳）と詩編の作者は歌っている。草取りをしていると、この草も神が造られた草なのだなあと思う。それなのに、草を抜いて良いのだろうかと思うときもある。しかし、それもまた神の御業の中に入っている。神は、植えたものを抜くお方であると預言者エレミヤは 45 章 4 節で語っている。そうして、新しいいのちが生まれていく。このいのちのサイクルも神が造られた世界であり、いのちそのものである。

抜かれる草のように、人間のいのちも消えていく。しかし、誰も覚えていないような草であろうとも造り主は記憶している。造ったお方の内に残っている記憶がある。この詩編には、我々人間の儂さを包み込むように、「憐れみ」と「慈しみ」という言葉が置かれている。今日、我々が行う働きもまた、すぐに忘れ去られる働きである。明日になれば、また草が生えてきて、昨日草取りしたことも忘れられてしまうであろう。それでもなお、我々を造り給うた神は、我々が為した働きをも記憶しておられる。神のすべての記憶の中に、我々の今日がある。今日も小さな働きを神に献げて生きよう。ただの塵に過ぎないわたしを記憶しておられるお方に。

②ディアコニア(特別養護老人ホーム)



2022 年度がスタートしました。今年度ディアコニアの事業計画は、これからの介護人材不足・選択される施設への対策です。

昨年度、最新入浴設備の導入や排泄介助方法見直し、介護記録システムの更新等に続き、2022 年度は更に見守りシステムの導入を進めます。それらの環境を生かし、業務改革・改善に取り組み、「変化」と「標準化」をキーワードに科学的介護を進めていき安定した施設運営に努めていきます。

今回新たに施設西側にディアコニア看板を設置しました。

③いぶき(就労継続支援 A・B 型)



いぶきガチャガチャ始めました。1 回 500 円とちょっと高めの値段ですが、デンマーク牧場の羊毛で作ったいぶきの商品が気軽に購入できます。人との接触も避けられ、感染の予防にもなります。ガチャガチャなので、なにが出るかはお楽しみですが、中には 700 円以上の物も入っていたりもします。静岡新聞にも取り上げられ、売り上げは好調です。昨年度は、就労継続支援 B 型事業の工賃規定を改訂し一人当たりの工賃を最大 5,000 円ほどアップしています。その分、売り上げをのばして、工賃を確保する必要があります。頑張っって良いものを作っています。皆さんよろしくお願ひします。

④まきばの家(児童養護施設)



コロナウィルスの影響で、以前のようなお出かけをすることがとても難しくなりました。そこで、小規模棟の女の子となにかできないかと一緒に考え、「バルーンアート」や「ハーバリウム」をして楽しみました。「バルーンアート」の方は、機関紙大地で記載しましたので、「ハーバリウム」について書いてみようと思います。

みなさん、ハーバリウムってご存じですか。なかなか聞きなれない言葉ですね。それでは簡単にお伝えします。透明な瓶を用意して、好きな貝殻を選び、ビーズをあしらひ、色のついた砂を敷き詰めていきます。「私これやりたい、こんなふうにしたい」となり、子どものアイデアが湧いていきます。個性がピカピカに光りました。

福祉村のために、篤いお祈りと貴重な献金を心より感謝申し上げます

「福祉村募金」献金者（敬称略） 2022年3月～2022年6月

個人

石田 勉・喜久子[福山] 梅田和寛[デンマーク牧場福祉会] 小泉小枝[修学院] 木下海龍[引退教職]
相馬和美[日キ藤沢] 内藤文子[小岩] 藤井邦夫・貴子[宇部] 森部 信・榮子[甘木]
小野エミコ、中山由美子、西野孝枝、宮崎典子、望月隆延、山本美智代[清水] 安齊久子
鈴木暁美、鈴木春江、中井奈津子、芳賀直哉・美江、増田治子[小鹿] 池谷益代、遠藤富美子
宗 美江、杉山雅人、鈴木英敏、原 ふじ子、船城秀樹[静岡] 伊藤節彦・真理、大柴 潔
片川三枝子、金高美江子、櫻井 隆・國江、杉本光子、沼野寿子[栄光] 葛 長弘、後藤 進
[掛川菊川] 明比輝代彦・史子、柴田恵子・光、鈴木敏雄・皓子、寺嶋豊司・文世[新霊山]
伊藤旭人[浜松] 磯村久市・和子、鯉江文子、武居良美[知多] 池田祥子、市川 旬、一ノ瀬
彦治・安子、伊藤由紀子、今枝隆久・有里子、植下眸子、大野捷二・比奈子、菊池 敏・
幸子、ケネス ロビンソン・小坂敦子、小島知永子、坂井茂子、塩田 浩、嶋 昭江
末竹十大・真木雅子、中島里実、西尾三郎・和子、野間 實、古谷美千留、堀 育美、村松
正義・美那子、吉田 穰・貞代、吉田玲子[なごや希望] 石川吏志・美代子、犬飼通之・
佐智子、大野信雄・良子、小原春子、神崎 昇・悦子、岸 享子、木村敦子、黒野正信・
春枝、後藤由起、白井美枝子、杉浦良一、鈴木光治・貴美子、田村辰夫・勝子、鳥飼勝隆
・豊子、永津浩哉・睦子、深谷昭治・節子、藤田房子、藤原 薫、宮田増男・久美子、安井
則夫・芳子[名古屋めぐみ] 浅井道子、生駒順子、稲垣八重子、甲斐亜希、勝田周子、草野武志
・淳子、斎藤志げみ、谷川卓三・文江、徳光里明・聖喜、西尾年子、長谷川善造、古川
のぞみ、松宮洋子、安田久夫・チヨ子、山下裕子[高蔵寺] 秋田明子、秋田義彦、大場弘子
岡田敦子、小坂恵子、齋藤幸二・末理子、柴田るみ子、鈴木輝一郎、千田知栄、田口道治
・和子[大垣] 匿名（2名）

団体

知多教会、東海教区総会席上献金、名古屋めぐみ教会、ふく茶

福祉村募金 2022年3月～2022年6月 927,674円

福祉村設立委員長だった重富克彦牧師がこの機関紙の第1号(1995/11/1)の中で『ここに光の村を』と巻頭言を書かれています。2003年「ディアコニア」創設時、東海教区が抱えた自己資金の不足分は1億4350万円でした。途方もない額！それも来年で返済を終わろうとしています。多くの皆様の長い間の祈りと貴重な献金の賜物が結集されたお陰です。デンマーク牧場福祉会は光の中で歩みを続けています。これからも『光の村を』お支え下さいますようお願いいたします。同じ時代を生きることが出来る幸運を主に感謝しながら。（会計 櫻井國江）

〔福祉村募金振込先〕（郵便局）振替口座番号 00800-2-98186 福祉村委員会

編集後記 今年のわいわいワークも近隣教会のみということになりました。来年は、教区全体でワークすることができますように祈っています。東海教区の働きとしての「福祉村構想」に各教会の一人おひとりが祈りをもって関わっていただけますように、取り組んで参ります。（末竹）